

平和学習貸出用紙芝居一覧

計36点

題名	分類番号	枚数	内容
あおよ、かえってこい	K-21	12枚	太平洋戦争末期、東京は毎日のようにアメリカ軍の爆撃にさらされていました。—そのころ、ぼくの友だちに、けんちゃんという子がいました。けんちゃんの家は運送屋で、あおという、かわいい馬がいた。ぼくは、あおと親しくなったが、3月10日の大空襲の日に、ぼくとあおは火と煙につつまれて—戦争では人間だけでなく、動物も犠牲になることを伝える紙芝居です。
アンネフランクの希望	K-29	12枚	第二次世界大戦中、ユダヤ人迫害から逃れるために潜伏生活をおこなったことで知られる「アンネフランク」を描いた紙芝居です。困難な状況でも希望を見失わなかったアンネの姿を伝えています。
おこうおばさんの平和のいのり	K-54	16枚	おこうおばさんは、医者がない村で、たくさんの子どもが生まれる手伝いをしてきました。ところが、戦争になり、とりあげた男の子たちが兵隊として出兵して行ってしまい…。
紙芝居日本国憲法1 「憲法のあゆみ」	K-16	16枚	明治憲法から日本国憲法への歩み、両者のちがいなどを描いた紙芝居です。
紙芝居日本国憲法2 「ヒロシマに行つて」	K-17	16枚	憲法の戦争放棄と国際平和主義について描いた紙芝居です。
紙芝居日本国憲法3 「クラス委員はだれだ」	K-18	16枚	憲法の主権在民とはなにかについて描いた紙芝居です。
紙芝居日本国憲法4 「がんばれ！勇くん」	K-19	16枚	憲法の基本的人権の尊重について描いた紙芝居です。
紙芝居日本国憲法5 「どんぐり山 子どもの森公園」	K-20	16枚	憲法の地方自治とわたしたちの暮らしについて描いた紙芝居です。
かりゆしの海	K-53	8枚	「かりゆし」とは、「めでたいこと、えんぎのよいこと」という沖縄の言葉です。魚やサンゴが生きる、沖縄のすばらしい海への思いを描いた紙芝居です。
かわいそうなぞう	K-22	12枚	太平洋戦争のおわりごろ、上野動物園には、ジョンとワンリーとトンキーの3頭のゾウがいました。戦争がはげしくなり、東京の町は、毎日のようにアメリカ軍の空襲をうけるようになりました。動物園が爆撃されて、ゾウがあばれだしたら大変です。そこで、3頭のゾウは、つぎつぎに殺されることになりました。戦争の犠牲になったゾウたちを描いた紙芝居です。

題名	分類番号	枚数	内容
原爆の子さだ子の願い	K-24	12枚	さだ子が2歳のとき、広島に原子爆弾が落とされました。運よく助かり、「さる」と呼ばれるほど元気に成長しましたが、運動会するとき突然倒れてしまいました。生きたいと願いながら、鶴を折り続けた佐々木禎子さんを描いた紙芝居です。
三月十日のやくそく(ともだちだいすき)	K-52	12枚	毎日、あちこちで空襲がある。学校も兵隊になる訓練ばかりだ。でも、ぼくのところにまで空襲はまだこないと思っていた。けれど、その日はやってきた。1945年3月10日の真夜中、空は爆撃機にうめつくされ、町は炎につつまれた……。熱風にあおられながら逃げまどうさなか、ぼくは友達のガンちゃんにであう。「また あおう、やくそくだぞ。」と、再会を誓ったけれど……。著者、早乙女勝元さんの実体験をもとにした紙芝居です。
象牙の櫛	K-51	12枚	テュちゃんは、ベトナムの子どもです。1歳の頃おとうさんがベトナム戦争の解放軍に参加して、長い間帰ってきませんでした。ベトナムの自由と独立のために戦い続けたベトナムの人々の志を深く描いた紙芝居です。
白旗をかかげて	K-31	12枚	太平洋戦争中、日本国内で唯一地上戦のあった沖縄。両親を失ったひろしとみつ子は戦火の中、母親がいつも口ずさんでいた「ていんさぐの花」を思い出しながら、生き抜くことを誓います。兵士だけではなく、多くの民間人が犠牲になったことを伝える紙芝居です。
ちっちゃいこえ	K-50	16枚	ネコが語ります。家族のこと。命をつくりつづける、体の中のちっちゃい声のこと。ヒロシマのこと…。わたしたちはどうすれば生きていけるのか？原子爆弾の影響を、動物たちの目線から伝える紙芝居です。
トビウオのぼうやはびょうきです	K-23	12枚	しあわせな南の海に、トビウオの親子が住んでいました。父さんが仲間と出かけた日、遠くの空が真っ赤に染まり、水がグラッとゆれて、ずずずーんと恐ろしい音が響いてきました。その後、白い雪のような粉がふり、トビウオの坊やは、誰にもわからない病気になってしまったのです。平和への願いをこめて書かれた名作を紙芝居化したものです。

題名	分類番号	枚数	内容
日本の歴史21 「陸蒸気と小学校」	K-6	16枚	明治初期の文明開化をとりあげ、旧時代から新時代への転換を感覚的に理解できるように描いた紙芝居です。
日本の歴史22 「自由の旗」	K-7	16枚	自由民権運動の一つの典型といわれる秩父事件を描いた紙芝居です。
日本の歴史23 「野麦峠をこえて」	K-8	16枚	山本茂美著「あゝ野麦峠」をもとに、山村のまずしさ、その貧しさを生む封建的土地制度、工場で働く女性たちの苦しみを通して、日本の近代化のひとつこまを描いた紙芝居です。
日本の歴史24 「おかかたちの米騒動」	K-9	16枚	富山県の漁村地帯からはじまった米騒動をとりあげ、その主役が漁家の主婦(おかか)たちであったこと、これをきっかけに米騒動が全国に広がったこと、などを通して、日本の民衆運動の発展を理解できるように描いた紙芝居です。
日本の歴史25 「雨ニモマケズ」	K-10	16枚	宮沢賢治の生涯を描き、賢治がどんな先生であったのか、賢治は農民のためにどんなことをしたか、当時の農民がどんなくらしをしていたかなどを考えさせるように描いた紙芝居です。
日本の歴史26 「赤い夕日」	K-11	16枚	15年戦争の始まりとなった「満州」事変をとりあげ、「満州国」の建国から、やがて移民が送りこまれるまでを描いて、なぜ国民が積極的に侵略戦争を支援したのかを考える紙芝居です。
日本の歴史27 「雪山に生きぬく13年」	K-12	16枚	太平洋戦争で日本に強制連行された中国人・劉連(リュウ＝リエンレン)さんの苦闘の物語であり、日本が中国人に対してどんなことをしたかなどについて考える紙芝居です。
日本の歴史28 「嘉代子ざくら」	K-13	16枚	長崎への原子爆弾で被爆死したひとりの高等女学校生の生涯を描き、原爆の悲惨さ、平和の尊さを描いた紙芝居です。
日本の歴史29 「リンゴの歌」	K-14	16枚	太平洋戦争の敗戦から日本国憲法の成立までの時期を扱い、敗戦から占領、戦後の混乱と諸改革、そして新しい憲法の成立にいたる過程を描いた紙芝居です。
日本の歴史30 「ノーモア＝ヒバクシャ」	K-15	16枚	世界各地でもりあがる戦後の反核・平和運動をとりあげ、被爆国・日本の取り組みなどを通して、平和の大切さを描いた紙芝居です。

題名	分類番号	枚数	内容
はだしのゲン 第1巻	K-1	各16枚	原爆体験者である中沢啓治氏の漫画「はだしのゲン」の紙芝居です。麦のように、踏まれても踏まれてもまっすぐ伸びる、主人公ゲンの明るくたくましい姿が描かれています。
はだしのゲン 第2巻	K-2		
はだしのゲン 第3巻	K-3		
はだしのゲン 第4巻	K-4		
はだしのゲン 第5巻	K-5		
ベトちゃん・ドクちゃん	K-30	12枚	小学四年生の幸子は、ベトナム戦争で使われた枯葉剤の影響で、体がくっついて生まれてしまった双子「ベトちゃん」と「ドクちゃん」のニュースを見てショックを受けます。人間を傷つける戦争は大人の世界のことで、子ども自身が悲惨な目にあうなど考えてもいなかったからです。そこで幸子は、家に帰ってお母さんに話を聞き、学校で研究発表をすることにしました。戦争がもたらす、身体と環境への影響を伝える紙芝居です。
ぼく、スイカだいすき	K-25	12枚	スイカが大好きなベトナムの男の子ティクちゃんは、「皮はきちんと捨ててね」というお母さんとの約束を忘れて、窓から投げ捨てました。ところがその皮を、訪ねてきたおばあちゃんが踏んでしまいました。ティクちゃんは反省し、投げ捨てた皮を拾いゴミ箱に捨てました。約束を守ること、思いやりの大切さを伝える紙芝居です。
平和のちかい	K-26	16枚	世界で初めての原子爆弾が広島市に落とされ、多くの人々が犠牲になりました。被爆当時の惨状やその後の苦しみを、子どもたちの体験を通して語られる紙芝居です。
のぼら	K-27	12枚	二つの国の国境をそれぞれ守っている年寄りと若者の兵隊がいました。お互いに口を聞かずにいましたが、春になってのぼらが咲き、二人は初めて言葉をかわします。二人は、お互いのことを語り合い、心を通わせて友人となります。しかしある日、ふたつの国の間で戦争がおきてしまいます。若者の兵隊は命令で国境から他の戦場へと赴きます。一人残った年寄りの兵隊は、若者の無事を祈り、生きて再び出会うことを願いますが…。人と人とのつながりや未来を奪っていく戦争への怒りと悲しみ、そして平和への願いがこめられた紙芝居です。
二度と	K-28	12枚	1945年8月、世界で初めての原子爆弾が広島と長崎に落とされ、人も動物も何もかもが命を奪われました。「二度と原爆を落とさないで」という願いと祈りがこめられた紙芝居です。